

カラーモルタルシリーズ

# テクノカラーFW

## 施工要領書

※テクノカラーFWは、「カラーモルタル」なので仕上がりにおける色合いが重視されます。  
本製品を施工される場合は、通常のもルタルと同様に扱うのではなく、より綺麗に仕上げる為に **必ず本施工要領書をお読みになった上で施工してください。**

TechnoColor

[テクノカラー]

 **日本ジッコウ株式会社**

 **テクノスジャパン株式会社**

テクノカラーFWは、耐摩耗性、耐ひび割れ性能に優れた薄層仕上げのカラーモルタルで床面・壁面共に施工可能です。

## 1. 使用材料

### ●使用材料

テクノカラーFW			
工程	材料名	材質	標準配合
プライマー	テックス7	超微粒子アクリル樹脂系エマルジョン	原液で使用
カラーモルタル	テクノカラーFW	繊維・ポリマー混入カラーモルタル	粉体20kg+混和液4.0kg
表面保護	テクノコート	アクリル樹脂系エマルジョン	原液で使用

※1 テクノコートは必須ではありませんが、塗布することで表面保護や汚れ防止等の効果が期待できます。

材料名	荷姿
テックス7	1kg・5kg/ホリ瓶、18kg/缶
テクノカラーFW	24kg/セト
テクノコート	1kg・5kg/ホリ瓶、18kg/缶

※ テクノカラーFWの施工厚さは、**3～7mm**です。下表をご参考に材料をご準備ください。

施工厚(mm)	1㎡あたりの使用量(kg)	1袋あたりの目安
<b>3mm</b>	<b>6.0</b>	<b>約4.0㎡</b>
<b>4mm</b>	<b>8.0</b>	<b>約3.0㎡</b>
<b>5mm</b>	<b>10.0</b>	<b>約2.4㎡</b>
<b>6mm</b>	<b>12.0</b>	<b>約2.0㎡</b>
<b>7mm</b>	<b>14.0</b>	<b>約1.7㎡</b>

※1：施工厚：ノンスリップ仕上げ(刷毛引き)は3mm以上、平滑仕上げは4mm以上

※2：駐車場(普通乗用車程度)で使用する場合は5mm以上とし、24N/mm<sup>2</sup>以上の健全なコンクリートもしくは無収縮モルタル下地が条件となります。

## 2. 必要な道具類

軍手、ゴム手袋、保護マスク、防塵マスク、練り混ぜ容器(ペール缶等)、ハンドミキサー、ワイヤブラシ、電動サンダー、噴霧器、刷毛、ローラー、左官コテ、木コテ、養生シート、皮スキ、ウエス 等

## 3. 練り混ぜ方法

### 1)テクノカラーFW

練り混ぜ容器(ペール缶等)に混和液4.0kg※を先に入れ、その後テクノカラーFW粉体20.0kgを少しづつ投入しながら十分に(ハンドミキサーを用いて2分程度)攪拌してください。

次にテクノカラーFW練り混ぜ後3分程度練り置きし、モルタルを仮凝固させた後、再練りを1分程度してください。(再練りしますと作業性・品質とも良好となります。(少し硬く感じても、足し水をしないでください。))

- 練り混ぜ容器はペール缶(丸缶)を使用してください。
- 大量に練り混ぜる場合は、ベビーミキサー等をご使用ください。
- 混和液は計量済みなので、**現地で水等を加えないでください。**  
白華現象、色ムラの原因になります。
- 粉体を混和液より先に入れますと、大変混ぜにくく、コーナーに粉体が残るケースがあります。

### ★★★★ 重要 混和液使用量の調整について ★★★★★

※ 夏場と冬場では、練り上がり状態が異なります。使用する混和液は、1セット:4kgですが、季節に応じて3.6kg~4.0kgの範囲で調整し、ご使用ください。

季節	外気温	混和液の目安
春・秋	15℃~30℃未満	3.8kg
夏	30℃以上	4.0kg
冬	15℃未満	3.6kg

※ 低温時の施工(15℃未満)は、白華や色むらが生じる可能性があります。そのため、**練り混ぜ時間はハンドミキサーで2分程度攪拌し、次に3分ほど練り置きしてから、1分程度再練り(攪拌)を厳守してからご使用ください。**



テクノカラーFW練り混ぜ状況

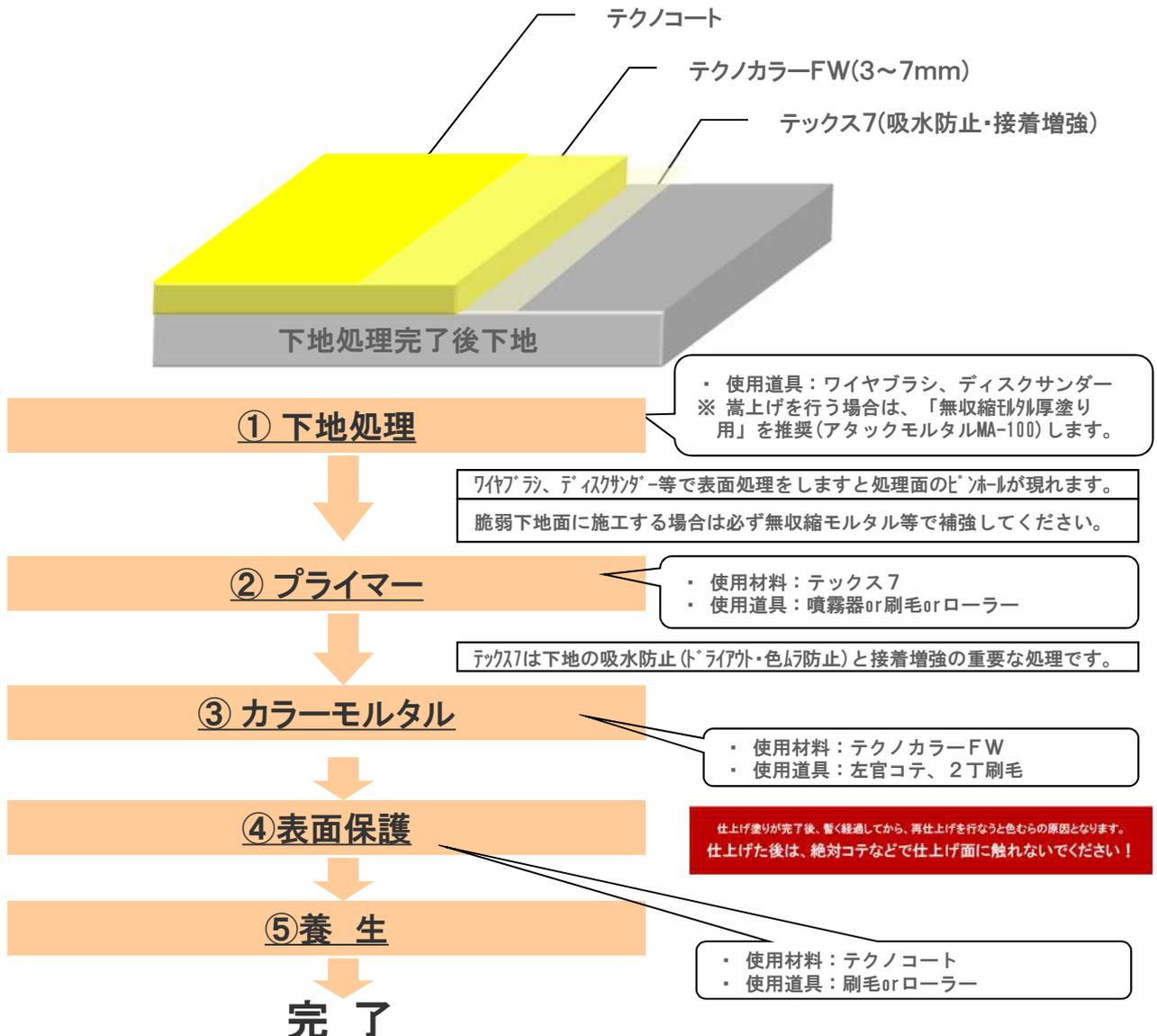
## 4. 施工手順及び施工方法

### ■一般床（平滑仕上げ及びノンスリップ仕上げ）の場合

テクノカラーFWは無機系(セメント)の材料ですので、コテ仕上げ時の水打ち(加水)、擦り過ぎ、施工完了後に再び表面を触ったりすると、白華や色ムラが生じる場合があります。

工程	材料名	可使時間(20℃)	標準使用量(kg/m <sup>2</sup> )	施工厚(mm)
下地処理	コンクリート又はモルタル表面の欠陥部処理・付着阻害物の除去完了していることを確認し、対象面の清掃を行なってください。			
プライマー	テックス7	—	0.1~0.15	—
カラーモルタル	テクノカラーFW	40分程度	6.0~14.0	3~7
表面保護※1	テクノコート	—	0.10~0.15	—

※1 テクノコートは必須ではありませんが、塗布することで表面保護や汚れ防止等の効果が期待できます。



## ① 下地処理

- イ) 下地の表面は、モルタルの付着を妨げるレイタンスなどの脆弱層や付着物の有無を確認してください。脆弱層や付着物がある場合は、施工に先立って、施工対象面を全面清掃してください。
- ロ) 小さな段差・突起物の処理（凸）  
段差及び突起物は、サンダー・皮スキなどを用いてできるだけ平滑になるよう処理してください。
- ハ) 既設塗膜がある場合  
テクノカラーFWの適用下地は、コンクリート又はモルタル面となります。従って、下地に有機系の塗膜等が存在する場合は、サンダー等を用いて**旧塗膜を完全に除去してください。**
- ニ) 柵蓋等の処理  
柵蓋などの役物がある場合、テクノカラーFWを塗り付けますと段差が生じますのでその周りをサンダー（約3mm程度）で削り取ってください。
- ホ) ひび割れの処理  
**下地にひび割れ等の欠陥がある場合は、必ず処理をしてください。**  
(ひび割れに沿って仕上げ面も割れる事があります)

## ② プライマーエ

下地処理完了後、異常がなければ**テックス7**を原液のまま噴霧器・刷毛・又はローラーで塗り残しがないように均一に塗布してください。**※塗布量目安：100～150 g/m<sup>2</sup>（指触乾燥の目安：30分～60分/20℃）**※塗布にバラつきがあると、色ムラの原因となります。

**吸い込みが激しい場合は、テックス7を2回塗りしてください。**



ローラー・刷毛で塗布



テックス7塗布完了

### ③カラーモルタル塗布工

テックス7が指触乾燥したことを確認してから、テクノカラーFWの練り混ぜを行ってください。  
(指触乾燥の目安：乳白色から透明に変わります。20℃で30分～60分程度です。)

#### ■コテ仕上げの場合(最低4mm以上の厚さを目安に仕上げてください。)

練り混ぜ完了後、直ちにテクノカラーFWを金コテで下地にこすりつけるようになじませながら所定の厚みにし、続けて2度目の押さえにより平滑に仕上げてください。

- 2度目のコテ押さえは、1方向から行なえばより一層きれいな仕上がり面が得られます。
- 2度目のコテ押さえから硬化までの間は、絶対水打ちしたり、表面を触らないで下さい。色ムラや白華の原因となります。
- 屋外施工で降雨や強風の心配がある場合は施工しないで下さい。色ムラや白華の原因となります。
- 仕上げる際、水を加えて押さえる方法は、色ムラや白華の原因となりますのでご注意ください。

仕上げ塗りが完了後、暫く経過してから、再仕上げを行なうと色むらの原因となります。  
仕上げた後は、絶対コテなどで仕上げ面に触れないでください！



下地にガリガリとこすりつける



所定の厚みに均し仕上げます



完 成

#### ■ノンスリップ仕上げ(刷毛引き)の場合(施工厚：3mm以上を目安)

練り混ぜ完了後、金コテで下地にこすりつけるようになじませてください。  
そして所定の厚み(3mmから)になるように仕上げてください。  
次にテクノカラーFWのしまり具合を見計らって2丁刷毛等で一方向から刷毛を引き仕上げを行ってください。



工程①所定の厚みに均す



工程②刷毛引きで仕上げる



完 成

仕上げ塗りが完了後、暫く経過してから、再仕上げを行なうと色むらの原因となります。  
仕上げた後は、絶対コテなどで仕上げ面に触れないでください！

## 【金コテ仕上げ・刷毛引き(ノンスリップ)仕上げ共通の注意事項】

注1) テクノカラーFWの可使用時間は20℃で40分程度です。  
練り混ぜは時間内に使い切る量としてください。  
季節によって可使用時間が異なりますのでご注意ください。

夏場（早い） ← 硬化 → 冬場（遅い）

注2) 練り混ぜから40分（20℃）以上経過した場合、材料の粘性が高くなり、  
平滑に仕上げることが困難となりますのでご注意ください。

注3) 仕上げた後は、硬化するまでは、絶対水打ちしたり表面を触らないでください。  
未硬化の段階で表面に水と接触したり、触りますと本来の色を損なう事があり、  
色ムラや白華発生の原因にもなります。  
※ 降雨の懸念がある場合は絶対に施工しないでください。

### ④表面保護

テクノカラーFW硬化後(18時間以上)、テクノコート $100\text{ g/m}^2$ を刷毛又はローラーで均一に  
塗布してください。但し、外気温が15℃未満での施工の場合、テクノコート塗布は2日以上経過  
してから、塗布してください。

※表面保護や汚れ防止につながります。

※テクノコート施工後のメンテナンスにつきまして、表面の汚れなどを除去する場合は  
「中性洗剤による水洗い（スポンジおよび布を使用）」を推奨致します。

### ⑤養生

施工完了後、天候や気温にもよりますが、屋外では48時間、屋内では24時間以上を目安に養生して  
ください。なお、養生中は強風や直射日光等による急激な乾燥、降雨、凍結、結露の影響がないような養生  
環境を作ってください。

早期に供用したい場合は、歩み板などで仮通路を設け、未硬化の塗布面に触れないよう  
にしてください。

注) 普通乗用車が走行、乗り入れ可能な養生日数は、以下を目安としてください。

気温30℃	3日以上
気温20℃	4日以上
気温10℃	7日以上

## 5. 施工上の注意事項

- ① 本製品はセメント系の床材なので、施工環境・施工方法等により多少の白華・色ムラが発生する恐れがあります。施工に際しては本施工要領書をご確認の上、ご使用下さい。
  - 白華(はっか=白い粉状の汚れ)  
コンクリートやモルタルに含まれるアルカリ成分が水と接触して表面に現れる白い粉状の汚れ(生成物)
- ② 仕上げてから、テクノカラーFWが硬化するまでコテ押さえ・均しなどを行なわないでください。
  - ※白華現象・色むらの原因になります。
- ③ 屋外で施工する場合、降雨時、降雨、強風が予測される時、または**高温下(30℃以上)<sup>※1</sup>及び低温下(5℃以下)<sup>※2</sup>**では、施工しないでください。
  - ※1 屋外施工で外気温が30℃以上(コンクリート表面温度が50℃以上)になる場合には、**夕方の温度の低い時間帯に施工し、直射日光を避けるよう養生してください。**
  - ※2 低温時の施工は、**白華の影響を受けやすいため、10℃以上になるように加温養生してください。薄塗りですので特に影響を受けます。**
- ④ 硬化後、白華(エフロレッセンス)や色むらが発生した場合の処置  
「テクノカラーメンテナンス材」荷姿：10kg/set を上塗り頂く事を推奨致します。  
参考手順(概略)
  1. 施工対象面のほこりやゴミを全面清掃し、凸面がある場合は研磨等により平滑にしてください。
  2. プライマーとしてテックス7原液を100~150g/m<sup>2</sup>、噴霧器・刷毛・ローラー等で塗布してください。
  3. プライマー指触乾燥後、テクノカラーメンテナンス材の調合(練り混ぜ)を行い、コテによりシゴキ塗りをしてください。※塗付厚は必ず1.0mm以下としてください。
  4. 天候・気温によりますが、屋内で24時間、屋外で48時間以上養生してください。※詳細の施工方法につきましては、「テクノカラーメンテナンス材施工要領書」をご参照ください。
- ⑤ 見本サンプルと実施工の仕上り状態は、ロットや環境等により多少異なる場合があります。
- ⑥ 薄塗りモルタルなので下地が脆弱面ですと接着安定性の確保ができない場合やひび割れ等が生じる可能性がありますので、必ずシゴキ材等で表面を強化改質してから施工をしてください。
- ⑦ **テクノカラーFWの施工の際は、樹脂分の吸い込み防止と接着補強を目的としたプライマーのテックス7を必ず塗布してください。**
- ⑧ テクノカラーFWが硬化後(比較的初期の段階)に施工環境(温度、強風、湿度、降雨)等により、表面に微細なひび割れが現れることがありますが、それはセメント硬化物特有の現象であり、物性上は特に問題ありません。硬化後に表面保護材(テクノコート)を塗布することで抑制できる場合があります。
- ⑨ 下地コンクリートに誘発目地がある場合は、目地の上に施工すると割れますのでご注意ください。
- ⑩ 広い面積でご使用する場合、色ムラやコテ波が発生する場合がありますので、1.5m以内で化粧目地を設けて、区画を分けて施工することを推奨致します。
- ⑪ 駐車場に施工する場合は、下地(コンクリートまたはモルタル)の強度が車を乗り入れても問題ないことを事前に確認してから施工してください。  
なお、モルタル系の材料ですのでタイヤ痕が残る場合もあります。
- ⑫ 製品改良のため、予告なく性能・仕様等を変更する場合があります。

## 6. 取扱い注意事項

- ・テクノカラーFWは、必ず屋内で保管してください。
- ・開封後の粉体は、一回で使い切ってください。
- ・本製品は、水分と接触すると強いアルカリ性になり、皮膚・目・呼吸器などを刺激したり、炎症を起こすことがあります。
- ・目に入らないようにしてください。万一入った場合、直ちによく水で洗浄し、専門医の診察を受けてください。
- ・皮膚につけないようにしてください。
- ・鼻や口に入れないようにしてください。誤って飲み込んだ場合は、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- ・取り扱いの際は、防塵メガネ・保護マスク・ゴム手袋を着用してください。
- ・子供に触らせないようにしてください。  
その他、詳細につきましてはSDS(製品安全データシート)をご参照ください。
- ・取扱いについてはセメントと同様に取扱ってください。